

日本薬学会九州支部主催

特別講演会

Current Industry Trends & Challenges in Monoclonal Antibody Drug Product Development

(モノクローナル抗体の医薬としての開発戦略)

Mohammed Shameem, PhD.

(モハメッド シャーミン)

メルクリサーチ研究所 無菌製剤開発部長

日時: 2012年 7月 23日(月) 13:00—15:00

場所: 熊本大学薬学部コンベンションルーム

講演概要

モノクローナル抗体 (mAbs) は特異的な活性、安全性などの面から、グローバルな製薬企業において大きな期待が寄せられている。抗体医薬は標的部位への特異的結合や結合性の制御が可能なることから、ガン、免疫などの病気に対して低分子化合物よりも優れた効能を示す。また、最近の抗体工学の発展や応用性の拡大によって、開発サイクルは短縮され、抗体の利用拡大が進んでいる。しかしながら、抗体はその物性のため、経口的に投与することはできず、もっぱら、注射剤 (患者本人が投与できる皮下投与剤を含む) として開発される。

本講演では、mAbs の医薬品としての開発方針およびそれに関わるテクノロジー、例えば製剤化・デリバリー技術および生産技術について説明する。

モハメッド シャーミン博士の略歴

熊本大学薬学部で博士号取得 (1993)。国立医薬品食品衛生研究所 (東京)、ケンタッキー大学で博士研究員として勤務。その後、アメリカ製薬企業で18年間、無菌製剤の開発、生物製剤のデリバリーに関する研究に従事。2002年からメルクに勤務し、現在、無菌製剤開発部長。2004年には、自己注射型の Pegylated Interferon (Redipen) の実用化に対して、Schering Plough's 2004 President Award を受賞。

連絡先: 熊本大学薬学部病態薬効解析学分野
今井輝子

iteruko@gpo.kumamoto-u.ac.jp